

今回は、APUで学ぶ附属校出身の先輩方や、APUを卒業生された方から「APUの魅力」や「APUでの生活」について語っていただきました。APUを目指した理由や、学生生活におけるフィールドはそれぞれ異なりますが、彼らに共通するのはAPUで様々なチャレンジをしている点。先輩方のメッセージからは、APUに流れる「空気」や「文化」を感じることができます。

【Voice.1】



**立命館アジア太平洋大学  
アジア太平洋学部 (APS)**

**3回生 奥ありか**

**「韓国語・英語が堪能！」**

私は、滋賀県から片道2時間かかる深草に通いながら、修学旅行実行委員会、生徒会に所属し、部活動でヨット部に所属していました。そのため、毎日諸活動で忙しく、勉強は電車の中でしていたのを懐かしく思います。3年間充実していた私の高校生活でしたが、ただひとつ「留学」ができなかったとい

うのが、私の中で達成できなかったことでした。そんな私は「国際的」な人間になりたい！ 世界中に友達をつくりたい！ 英語がもっと話せるようになりたい！ 習得できかねた中国語をマスターしたい！ という目標をもち、立命館アジア太平洋大学に進学することに決めました。入学後、私は目標を達成するために、APハウス(学内寮)で活発的に友達作りをし、語学学習を頑張りました。中国語をマスターすることはできませんでしたが、このAPUという大学が私と韓国語をめぐりあわせてくれ、今ではAPUの環境を120%活用し1年半で韓国語をマスターしました。そんな、私は現在もAPUで留学生と一緒に暮らしたり、大学広報スタッフとして韓国との交流を担当したりと、たくさんの活動をさせていただき、後悔のない大学生活を送っています。APUに進学を決めた時、友達と離れるのがいやだなとか寂しいな、親と離れても大丈夫かなという不安はありましたが、今ではそのように考えていた頃が懐かしいほどで、私の選択は間違っていなかったと思っています。立命館大学に進学していても新たな道で頑張っていたと思いますが、このように他人とちがった大学生活は送れていなかったのではないかと思います。もし、あの時立命館大学に行っていたら、このように韓国語、英語を話せるようにはなっていなかったでしょう。このように、いろんな価値観・文化と出会うこともなかったと思います。

今、大学3年生になってみんなにアドバイスしたいことは「計画・目標」を立てることの大切さ、そして「努力」することの大切さです。大学はただ、学習の「場」「環境」「チャンス」を与えてくれる場所です。小中高のように私達にそれらを掴む「方法」を教えてはくれません。自ら、暗中模索しながらもつかみに行かなければなりません。では、その時に何が必要になってくるのかということ、何でもかんでもつかめばいい

ってものではありません。大学生活は4年間しかありません。大学は夏休み、春休み2ヶ月間あり、土日も休みです。時間を計算してみましょう。実際学校に通う時間は4年もありませんよね。では、時間を有効に使うためには自分がその短い時間と長い休みの期間に何をしていたいかなければならないのかを、前もって考えておく必要があります。4年後、どんな人間になりたいですか？ その人物像に近づくためには、あなたは大学で何をしなければなりませんか？ そこに重点を置き進路選択をしていきましょう。

最後に、少しAPUについて書いておきたいと思います。APUは国際的な大学です。それに間違いはありません。しかし、APUを国際的な大学にするのか、しないのかはあなた自身にかかっています。あなたにとって、この国際的な環境で何か目標があれば来てください。しかし、ただ楽しむだけであるのなら、それはAPUでなくてもいいと思います。偉そうな口をきいてしまっていますが、これだけ言わせてください。「APUは特別な大学です。あなたがAPUで特別な人間になり、努力すれば、それはどの大学にいても出来なかった経験ができ、人と違った特別な人間になれる」、—APU生として保証します。APUは自分の可能性を広げ、今まで知らなかった自分に出会わせてくれる大学です。

## 【Voice.2】



### 立命館アジア太平洋大学

#### アジア太平洋学部 (APS)

3回生 小川知彦

「スペイン語・英語・韓国語が堪能！」

みなさんはいままで、人生においてたくさんの大きな選択をしてきたことだろうと思います。そしてこれから自分の進む大学を決めるというのも、大きな決意のひとつになるでしょう。

立命館アジア太平洋大学（以下 APU）という大学は、数あるほかの大学に比べて、非常に国際色が強く、いろいろな分野において「多様性」の豊かな大学です。APUは例えるなら、たくさんの「チャンス」という木の実がなっている大きな木のようなものです。足元に落ちている木の実だけを拾い集めるか、大きな木に自ら登って自らの意志で木の実をもぎ取るかは、あなた次第です。しかし忘れてはならないのは、この木の実を自由にとれるのは大学生活中の4年間だけであるということです。

APUに行くなら、寮生活、一人暮らし、外国人がたくさんいる環境など、はじめてのことがいっぱい、大変なこともたくさんあるでしょう。でもそれは、大変でありながらもほかの大学では出来ないような非常に貴重な経験でもあります。そんな経験をできるのも、APUならではの事ではないかと思います。

もし進む大学に迷っていて、少しでもAPUに興味があるのなら、APUに進んでも後悔はしないと思います。それほど、APUはいろいろなことにチャレンジできる環境があるからです。いろいろな文化とふれあいながら、世界のことに学べるAPUを、ぜひ皆さんも視野に入れてみてはどうでしょうか。

### 【Voice.3】



立命館アジア太平洋大学

国際経営学部（APM）

1回生 干場佳南大

「GASS（大学広報スタッフ）に所属し  
活躍中！」

### APUの良さとは？

#### 【私生活面】

##### 英語を一度も使わない日はない

普通に日本で生活をしていて、英語を使う機会はあまりないと思います。しかし、僕はAPUに来て英語を使用しなかった日はありません。デスクワークで得たものをアウトプットする環境があります。

##### 視野が広がる

APUの宣伝などにはよく「世界が広がる」と書かれていたりしますが、確かにその通りだと思います。自分が生きてきた世界が本当に小さな世界だったんだなと感じます。それを感じる場面は、宗教や習慣の違いを目の当たりにする時など様々です。APUは世界中の国々から学生が集まっている上に、日本全国からも学生が集まっています。人それぞれ違った価値観や考え方を持っていて、話をすることはとても楽しいです。

##### 世界が近くなる

APUに進学するまでは、正直世界中の人々と生活をして、仕事をしている将来の自分を想像することはできませんでした。けれど、APUに進学して、上に書いたような将来の自分を想像できるようになりました。

#### 【勉強面】

##### いい意味で日々プレッシャーを感じられる

APUに学びに来ている国際学生は、数ヶ国語を使用することで、将来のビジョンが明確な学生が多いです。そんな彼らの姿勢を見ていると、「負けたくない」という気持ちを嫌でも抱きます。その気持ちがモチベーションに繋がって、必死に勉強に取り組むことができます。

##### 整った勉強施設

個人的に英語を基礎から学べる施設があるので助かっています。

【Voice.4】



立命館アジア太平洋大学

アジア太平洋学部 (APS)

1 回生 村山陽平

「AP ハウスの RA 目指して勉強中、  
フットサルの全国大会にも出場！」

附属校での学びが大学に繋がる。正直、受験で進学してきた人達は、勉強はできます。しかし、グループワークで先頭に立つなら私たちの方が適しているし、プレゼンや、ディベートなどの場合においても同じことが言えます。APU も附属校と同じで自分から動かなければ、何も起こりません。そういった環境で磨かれたおかげもあり企画能力、実行能力は私たちが大きく先を行っているだろうと感じます。エッセイやプレゼンの進め方など一からレクチャーがありますが、既知のことなので復習程度で聞いておけば、バッチリ好スタートが切れます。私自信そう感じています。

AP ハウスでは英語が伸びる。これは絶対ではありません。部屋にこもっていてもどこに住んでいても同じですし、周りを日本人で固めている人などは、おそらくこれに当てはまりません。ハウス内は、日本人学生：国際学生 = 3：7 くらいか多くても 4：6 ほどです。その国際学生は様々な国、地域から集まっています。アジア、欧米は数多く。アフリカ、南米は少し比率が少ないですが確実にいます。英語だけでなく学びたい言語をネイティブの友達から学べます。私はこのセメスター（春から夏の 4 か月）は英語に集中して取り組みました。会話に必死でついて行こうとすれば、リスニングが鍛えられますし、話していると分からない単語が出てくるので語彙も増えます。授業で習ったことを試しに使ってみれば復習になります。AP ハウスは寮費が高いと言われますが、この学習環境があるので私はそうは思いません。それに電気・水道代込みですし、内部進学生は必ず AP ハウスに住めるので正直このチャンスを逃すのはもったいないと思います。

衣笠や BKC に比べれば、遊びやバイトなどに制限はかかりません。バイトはやろうと思えばいくらでもできます。大学内や、近くのサービスエリア、下界（別府市）に下りれば普通のバイト先も見つかります。でも実は、お金のかかる遊びがないから必死になってバイトしてお金を稼ぐ必要がないんですよね。そんなことにも気づきました。

高校生の時に真剣に進路を考えて、自分のやりたいことを見つけておいて良かったな、ということも感じました。私自身、世界に出て通用するコミュニケーション能力をつけるという目標のため APU にきました。そのために RA という AP ハウスの各フロアの寮長になろうという 1 つの通過点としての目標がありましたが、先日の最終選考で落ちてしまいました。しかし、プランには半年遅れをとりますがまた次年度に申請をします。大きな目標のイメージやベースがあれば、途中で少しくらい変わっても、時間がかかっても大丈夫だと思います。ですから高校生の時に真剣に考えたことは大切な資源になると思います。 まだまだ、4 か月の大学生活からの気付きですが、何らかのお役に立てばと思います。



## 【Voice.5】



「APUは『行動するかしないかは自分次第』という環境だから楽しい大学なんです」

日本旅行大分支店 二宮 健 (APU 卒業生)

よくAPU生は「APUの環境を活かすのも、活かさないのも自分次第」と言います。留学生が多い環境を活かして、英語を積極的に使い、英語を上達させることもできますし、その環境を活かさないのも自分次第です。

そんな2000年に開学したAPUは、まだまだ「未完成」の大学です。だからこそ、学生自身が力を合わせて、もっと良い大学にしようと活発な学生で溢れています。勉強はもちろん、課外活動に力を入れる等、学生一人ひとりが目標をもって行動をしています。

例えば、発展途上国の子供の人数に対して、学校の数が多い国があります。その国の子供達は、学校に行きたくても、学校が無いから行けないんです。私たち日本人には考えられないんですけどね。そんな子供達の為に、現地を訪れて、学校を建設するプロジェクトを実行しているようなサークルもあるんです。

また、私自身の例になりますが、2010年に「Spring Camp」というイベントを新しく立ち上げました。このイベントは、入学式を控えた新入生（日本人・留学生共に）を対象にした、新入生歓迎イベントです。このイベントを企画した最大の理由は、APハウス（大学寮。約7割の寮生が留学生で占めている「国際寮」）に入寮した学生と違って下界に住む学生は、入学式を迎えるまで友達を作る機会がなく、入学式に1人で参加してしまう新入生が目立っていたからです。他方、APハウスに住む学生は、入学式前から入寮が可能な事から、割りと早い段階で友達をたくさん作る環境に恵まれていました。同じAPUに入学する新入生なのに、住む場所によって、環境が違うのが納得いかなかったのです。だから、下界に住む新入生にも友達を作る機会を作ろうと思ったのがきっかけです。このように、まだまだAPUには足りない事がたくさんあります。学生自身で、APUをより良い大学にする事が出来るんです！

私は、今年の春にAPUを卒業して社会人になりましたが、この経験が仕事の面においても活かされています。既存には無いことを、自分のアイディアで生み出す「新たな挑戦」を積極的にするという姿勢を大学生活で学びました。

APU生は、今の自分に出来る事を自ら考え、それを実行するという事に力を入れている学生が多いのです。この姿勢が、大学を卒業して就職をしても、活発なリーダーシップを取る事ができる人材になるのだと思います。私自身も、そんなAPU生像に近づけるように頑張りたいですね！

APU生用語集 下界 APUが山の上に立地していることから「天空」と呼ばれているのに対して、山を降りた別府の街をAPU生は「下界」と読んでいます。

## 第2回・第3回 APU オープンキャンパス「附属校合同ツアー」を実施しました！！

去る、7月16日(祝)と8月5日(日)にAPUオープンキャンパスが開催され、APUに興味・関心を抱く附属校生有志が参加しました(両日の参加者合計、83名)。当日は、キャンパスのいたる所でAPUの卒業生、学生、そして附属校出身の先輩たちの生き活きとした姿が見られ、生徒たちは、改めてAPUに強い関心を持ったようです。今回も附属校生たちは「附属校合同ツアー」として、普段あまり交流のない他の附属校生と共にオープンキャンパスに参加しました。同じ志を持つ他校の生徒との交流も進み、参加者は非常に有意義な時間を過ごしました。以下にツアーを引率した先生方から当日の様子をレポートしていただきました。次回のオープンキャンパスは10月27日(土)です。少しでも関心をお持ちの方は、ぜひ、「附属校合同ツアー」へ積極的にご参加下さい！

### 【Report.1】

#### 「百聞は一見にしかず」 オープンキャンパスでは、APUならではのグローバルな学びを体感できます

今回の附属校合同 APU オープンキャンパスツアーの生徒参加者は、深草から48人、宇治から6人の合計54人と、史上最大級の参加者となりました。ここ数年、附属校出身者のAPUでの輝かしい活躍があり、今まで以上に附属校生のAPUへの進路選択への関心が高まってきている証であります。今回、教員は、深草教頭の尾崎先生、一貫教育部から、田中先生、遠藤の3人が引率、同行しました。

行程は以下の通りでした。

7/15(日)	7/16(祝)	7/17(火)
	6:00 起床、点呼	6:00 起床、点呼
	6:55 別府港到着	6:35 大阪南港到着、解散式
	8:00 地獄めぐり(観光)	
	10:30 APU到着	
	オープンキャンパス 自由行動	
18:00 大阪南港集合出発式	17:15 集合、APU 出発	
19:05 出航	17:50 別府港到着	
22:00 点呼、就寝	18:45 出航	
	22:00 点呼、就寝	

「百聞は一見にしかず。」という諺があります。正直言って、APUでの学びについて、学部ガイダンスや、進路情報誌などで見聞きしただけでは、なかなか、実感、理解できない部分があります。実際、日本の他の大学には類を見ない、グローバルな学びのシステムがAPUにはあるからです。グローバル社会であるこの先、大手企業が注目する、「今後期待される大学ランキング」(日本経済新聞)では、京都大学などの有名大学をしのぎ、APUは、第3位に位置しているようです。就職氷河期といわれる今、APUの学生の就職内定率が約96%であるという説明を今回聞いてきました。驚異的なこの数字が物語るように、APUの存在感を見逃してはならないでしょう。今まさに企業が求めるグローバル人材の育成システムが確立しているのです。

立命館の附属校生は、受験を学習動機とせず、受験生では決して、到達できないような真の高い学力の定着を目指しています。偏差値では決して測れない学力の1つが、APUで養った学力といえるでしょう。まさに、グローバルコミュニケーションのスキルがその1つであると感じます。

今回、ツアーに同行して、私が改めて感じた APU の魅力を簡単に箇条書きにして以下にまとめてみます。

世界約 100 か国からの国際学生と共に学べる。

1 学年は約 800 人で、約半数が国際学生である。

国際学生は、もちろん、各国の優秀な学生で構成されている。

一定の英語力を身につけたあとは、英語を学ぶのではなく、英語で学ぶことができる。

AP ハウス（寮）では、国際学生と 2 人 1 部屋で共同生活を行うことができる。

多言語、多文化に触れ、グローバルマインドが養える。

就職内定率が約 96% である。

RA というリーダー登用制度（奨学金つき）があり、活躍の場が多彩である。

クラブ、サークル、GASS という APU のイベント団体など、多彩な活動ができる。

緑豊かな山上に立地し、国際学生の学ぶ意欲にも触発され、抜群の学びの環境がある。

また、附属校生には、以下のような APU への特典や特権があります。

オープンキャンパスのツアー参加者へ、費用補助制度による格安料金設定。

オープンキャンパス内で、附属校生出身者との懇談会等特別プログラムの設置。

オープンキャンパスのツアーへ、引率教員を配置しての、安全安心制度。

入学者への、AP ハウス入寮への優先権。

学内推薦制度人数枠の「設定なし」という恵まれた条件。

今回、附属校出身者のさまざまな学生と懇談することができ、たくさんの APU の情報を得ることができました。みなさんの先輩方が、みなさんのためにご協力していただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。



ある先輩は、「言語をインプットできる大学はたくさんあるけど、学内でアウトプットできるのは APU だけじゃないのかなあ。」と言っていました。また、「APU に入学して後悔している学生は、少なくとも自分の知る限りではない。」「APU、AP ハウスで生活していると、アルバイトをしている時間ももったいないのでしていない。」など、学生生活の充実ぶりがあるものすごく、つたわってきました。みんな生き生きして話してくれたのが印象的でした。

今後、APU にもっともっと注目が集まることが予想されます。みなさんも、ぜひ、APU に、行って、見て、感じてほしいなあと思っています。そうすれば、未来を託された皆さんの考え方や物の見方の幅が今まで以上にグーンと広がることと思っています。

（一貫教育部 遠藤 健治 先生）

## 【Report.2】

### オープンキャンパスを通して「世界の中の自分」という視点を養い、

### 今後の学校生活や進路選択に役立ててください

#### 附属校合同ツアーに各校生徒が参加

8月5日(日)、APUでオープンキャンパスが開催されました。附属校の生徒を対象に実施されたオープンキャンパスツアーには各校の1年生から3年生までの29名が参加しました。今回は、立命館高校から22名、立命館宇治から3名、立命館守山から4名の生徒がAPUキャンパスの見学、APUならではの国際色豊かなメニューのカフェテリアでの昼食やAPU学生との交流、学生企画の多彩なプログラム等、APUの「世界につながる道」を体感してきました。

#### 別府までの船旅

ツアーは8月4日の夕方大阪南港での集合で始まりました。別府観光港までの船旅をした大型フェリー「さんふらわあ」にはレストラン・売店・お風呂などの施設があり、乗船後、参加者はそれぞれ思い思いに夜を過ごしました。船の航路は瀬戸内海で、途中、明石海峡大橋や瀬戸大橋を通り過ぎます。明石海峡大橋下の通過は夜9時過ぎということもあり、フェリーのデッキから神戸六甲の夜景をバックにライタップされた明石海峡大橋を楽しむこともできました。翌朝には晴天の別府港に入港し、参加者は専用バスで別府・大分市内を車窓から見学したり、「地獄めぐり」を楽しんだりしました。短時間でしたが「地獄めぐり」では思い思いに国指定の名勝などを訪れ、写真を撮ったり足湯につかったりして温泉の雰囲気を楽しみました。



#### いよいよAPUへ

再びバスに乗り、高崎山を通り過ぎて山手を登っていくと、バスのあちこちから「すごい!!」「きれい!!」という声があがり、窓の外には山の上の美しいAPUのキャンパスが!! APUに到着すると黄色いウィン



ブレの学生スタッフが元気にバスの中まで出迎えてくれ、流ちょうな外国語でのあいさつに雰囲気は一気にインターナショナルに! キャンパスに入って最初に目に飛び込んでくるのはAPUのシンボル、ツインタワーです。まずは全員で記念写真を撮り、学生スタッフが明るく声をかけてくれる美しいキャンパスを歩いて打ち合わせ会場へ。彼らはGASS(Global Admission s Students Stuff)と呼ばれ、APUのオープンキャンパスには欠かせない存在なのです。

#### 多彩なプログラムのオープンキャンパス

打ち合わせ後はオープンキャンパスの多彩なプログラムの中から思い思いに興味のある企画に参加しまし



た。オープニングは国際学生を含めた GASS スタッフによって進められ、英語・インドネシア語・韓国語で歌を歌うなど、世界 130 地域の卒業生・84 か国の国際学生が在学する A P U の雰囲気伝わってくる楽しい内容でした。

カフェテリアでタイカレー等 A P U ならではのメニューや大分ならではのメニューを楽しむ参加者や、キャンパスツアーで A P ハウスやキャンパスめぐりをする参加者、模擬授業や「Let's make 中国結び」等を楽しむ参加者もいました。「国際社会を考える時間」では国際学生として A P U で学び、日本の企業で働く卒業生から、日本人学生と国際学生の考え方の違いや常識の違い、「国際社会で働くためには世界のいろいろな人の様々な価値観を知れば、どの国に行ってもどの仕事についてもやっていける」「伝えるスキルは環境の中で身につけていくもの」「世界ではもはや“Global 社会”などと言わないくらいグローバル」「自分の持っている力がブランド」等の話を聞き、「地球村 A P U」で学生時代を過ごすことの意義を改めて感じました。

### 附属校合同ツアーのオリジナル企画



16:00 からは附属校合同ツアーのオリジナル企画で「卒業生との懇談会」が約 1 時間にわたり開かれました。参加者にとっては「アルバイトはどこでするの」「服はどこで買うの」など大学生活に密着した質問や「A P U を選んだきっかけは？」等進路選択に関する質問などを直接先輩にできる良い機会となりました。また卒業生からは「国際学生 7 割、日本人学生 3 割の A P ハウスでの生活が楽しい」「A P U では人間関係がすごい」「国際学生からの刺激がすごい」「国際学生は授業で学んだことを国に持ち帰り、

いかに国の発展に貢献するかを考えている」といった貴重な話や在学生ならではの楽しい話などを聞くことが出来て、熱い A P U 学生を囲んでの非常に楽しく笑顔の絶えない懇談会となりました。

### A P U を後に

実は午後から雨となり、晴天から A P U 名物の「霧」まで体験できたツアーとなったのですが、オープンキャンパスを終えてバスに乗り、G A S S スタッフに見送られて再び別府港に向かう頃には、なんだか A P U を後にするのが心さみしく感じられ、附属校卒業生が懇談会で話していた「A P U も大阪の実家も両方“家”と思える」ということがわかるような気がしました。

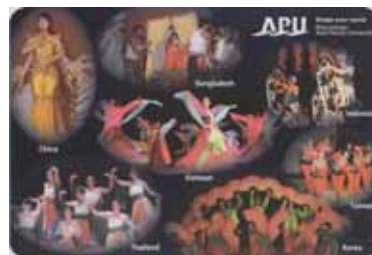
3 日間という短い期間ですが、参加者にとっては A P U を見学し A P U 学生と交流できる場としてだけでなく、附属校生徒どうしが交流できる機会でもありました。このツアーを通して、参加者は多くのことを学んでくれたのではないかと思います。「世界の中の自分」という視点で、これからの学校生活や進路選択に今回の経験を十分に活かしてくれることを期待しています。また、今この記事を読んでくれる附属校の皆さん、ぜひ一度このような機会を活用し、自分の目で A P U を見て、A P U を体感してみてくださいね！心からそう願っています。

(立命館守山高等学校 野坂 敦子 先生)

## 次回の APU 見学ツアーのご案内

立命館のもうひとつの大学、アジア太平洋大学 APU が実施するオープンキャンパスへ、附属 4 高等学校から合同で参加するツアーを実施します。

参加対象は高校生です



### 日程

- 10月26日(金) 大阪南港19:00集合(点呼,乗船手続)/結団式・諸注意  
大阪南港 19:55 発 (フェリー:ツーリストベッド)
- 10月27日(土) 大分府港 7:45 着 (送迎バス) 10:30 頃着 APU (オープンキャンパス参加)  
APU17:30 発 (送迎バス) 大分府港 19:35 発 (フェリー:ツーリストベッド)
- 10月28日(日) 大阪南港 7:35 着(解散)

### 定員

70名



### 費用

3,000円(食費など個人的な費用を除く)

立命館慶祥からの参加は、大阪南港までの交通費として2万円を補助

### 引率

学校法人立命館の担当教員・職員

### 集合・解散場所

大阪南港コスモフェリーターミナル(ATCのりば)

地下鉄四ツ橋線住之江公園駅または中央線コスモスクエア駅からニュートラム「トレードセンター駅」下車(徒歩約5分)

### 申込

申込書に必要事項を記入の上、各附属校の担当の先生に提出

申込〆切(厳守)

9月26日(水) 〆切厳守!

(附属校から一貫教育部宛の〆切は9月27日(木)とします(送付先:一貫教育課 杉本宛))

### 備考

このツアーは、日本旅行大分支部(TEL:097-532-6166)の手配で実施します。申込後に日本旅行より申込者本人宛に詳細の連絡が届きます。参加費用の支払手続きについては日本旅行からの案内を確認してください。万が一、出発3日前までに何も連絡がない場合は、日本旅行大分支部にお問い合わせ下さい。お申し込み後のキャンセルはできません。

定員を超えるお申し込みがあった場合は参加できない場合があります。予めご了解ください。

